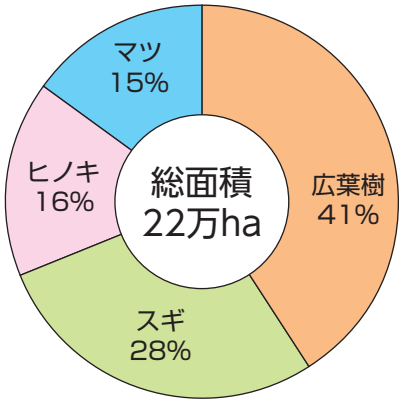
3 鳥取県の林業

1 森林の働きと林業

鳥取県の面積の７４％は森林です。昔から，森林の木を切る，使う，植えるといった林業が行われてきました。森林を上手に利用することは，かんきょうにも良い働きがあります。



鳥取県の森林面積
[2024年度鳥取県林業統計より]

くらしの中の木

森林から林業で切り出された木材は，わたしたちのくらしの中でたくさん使われています。柱やかべなど家を建てる材料に使われるほか，本やノート，ティッシュペーパーなど，くらしに欠かせない紙になります。そのほかに，まきや炭などの燃料にしたり，飛行機の燃料をつくる原料にしたりする取り組みが進められています。



柱，かべ，床，家具などに
たくさんの木材が使われている

持続可能な資源を利用する産業

木材は，石油や鉄などとちがい，木を切った後にふたたび苗木を植えていくことで，くりかえし生産することができる持続可能な資源です。また，森林の中で，きのこや山菜，薬草をさいばいすることもできます。林業は，こうした森林の働きをうまく利用している産業です。



くらしを支える森林からのおくり物

林業では，森林で育てた木，きのこ，山菜やそれらの加工品などを売って，生活に必要なお金を得ています。また，鳥取市や境港市には木をもやして電気をつくる発電所があります。発電所でつくられた電気は，多くの家庭で使用されています。



日新バイオマス発電所（境港市）

くらしを守る森林

森林は，わたしたちの生活に必要な水をたくわえ，こう水や土砂くずれをふせいだり，海辺の風や砂から守ったりしてくれるほか，いろいろな生物のすみかになっています。また，地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素をとりこみ，光合成によって酸素を作ってくれます。森林はわたしたちのくらしを守るのに欠かせません。



木の伐採（八頭郡智頭町）



間伐された人工林（日野郡日南町）

2　林業ってこんな仕事

①鳥取県の林業の特色

八頭郡では，江戸時代からスギが植えられ，皇居にも使われるような良質のスギ材が生産されています。日野郡でも多くの木が育っています。大山を中心とした地域ではマツ材を生産してきました。

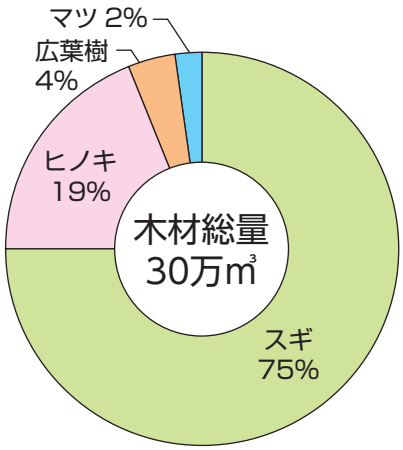


アカマツの林（大山町）

②クローズアップ！『木を生産する』

（1）木を育てる

苗木を植えてから，下草がり，間伐，枝打ちなどの手入れをすることで健全な森林になり，木が利用できるようになります。



鳥取県で生産された木材量［2024年度鳥取県林業統計より］


苗木を植える


下草がり


間伐・枝打ち


よく手入れされた森林

県内では，人の手によって植えられたたくさんのスギやヒノキなどが育っています。一方，木材のねだんが安くなり，手入れされない森林もふえています。その中で林業をがんばっている人や森林の手入れを手伝う人もふえてきています。

（2）道をつくり，木を切り，運び出す

森林の手入れや山から木を運び出すための道づくりが進められています。これによって，木を切ったり運んだりする機械が山に入るようになりました。その結果，たいへんだった山の仕事が安全で楽にできるようになり，多くの若者が森の中で働くようになりました。


森林の中につくられる道


機械で道まで木材を集める


車で運び出される木材

（3）木を売り買いし，加工する

鳥取県には３か所の木材市場があり，山から運ばれた丸太が売られています。



木材市場（智頭町）

市場で買われた丸太は，製材所で板や柱などに加工されます。また，境港市や日南町の工場では丸太をうすくむいて接着剤ではり合わせ，合板や大きな梁や柱などに加工しています。さらに，南部町の工場では，小さな板をはり合わせて，厚くて大きな板（ＣＬＴ）に加工しています。



製材所（若桜町）
住宅に使われる板や柱，土台などを作っています



合板工場（境港市）
床や屋根の下地などに使われる合板を作っています



CLT
住宅の床やかべなどに使われます。

（4）木を使う

県内には，約２００けん以上の工務店があり，多くの大工さんが活やくしています。

鳥取の気候や風土で育った地元の木「県産材」を使って，家を建てる運動も広がっています。

鉄やコンクリートで作られていた道の駅や保育園のような大きな建物にも，木が使われはじめています。



令和7年4月に新しくなったほうじょう道の駅



木がふんだんに使われています。

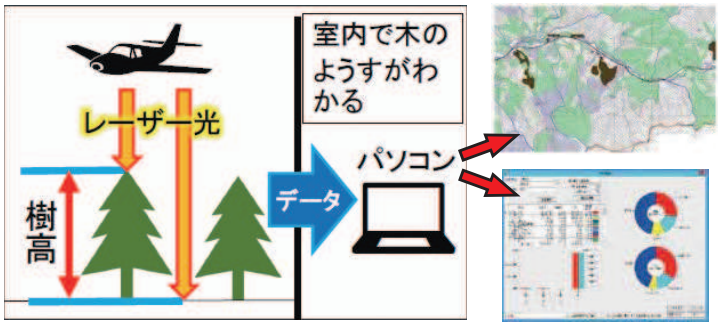
③クローズアップ！『新しい技術で林業が進化！』

デジタル技術などの進歩によって，これまでたいへんだった作業が速く楽にできるようになってきました（スマート林業）。

例えば，飛行機から照らしたレーザー光線の情報を調べることで，歩いて調べなくても森林の中の木の量や地形をくわしく知ることができるようになりました。

また，森林の上にドローンを飛ばして，森林全体の様子をカメラに映したり，苗木を運んだりすることもできます。

新しい技術によって，林業の仕事がどんどん進化しています。



デジタル技術を使った林業（スマート林業）のしくみ



ドローンで苗木を運んでいる様子

④クローズアップ！『かんきょうにやさしい林業』

わたしたちのくらしを守ってくれる森林を育てるために，木を切るときは少し残して切り，切ったところに新しい木を植えます。

鳥取県では，このたくさんの役割をもつ森林を県民全員の力で次の世代に引きついでいけるように，「豊かな森づくり協働税」という税金を使って，木を植えたり，林業を知ってもらう催しを行うなど，森づくりの活動に取り組んでいます。



鳥取県植樹祭の様子

⑤クローズアップ！『林業で働く人を育てる』

日南町にある「にちなん中国山地林業アカデミー」では，林業の仕事に役に立つ知識や技術を学ぶことができます。

また，技術を高めて安全に仕事をすることを目的に，チェンソーの技術を競う「日本伐木チャンピオンシップｉｎ鳥取」を開催したり，林業試験場の中に「とっとり林業技術訓練センター（グートホルツ）」をつくり，林業で働く人を育てる取り組みをしています。



アカデミーの入学式の様子



伐木チャンピオンシップの競技の様子



グートホルツでの訓練の様子

⑥クローズアップ！『木となかよくなる木育』

鳥取県では，子どもも大人もすべての人が木とふれあい，木に学び，木と生きることで豊かな心を育ててもらえるように「木育」に取り組んでいます。

例えば，木育の指導者の育成や木育に取り組んでいる施設の認定，そのほか，木のおもちゃの貸し出しなどを行っています。



木育の取り組みを認定された施設



木のおもちゃの貸し出し



木とふれあうことができる広場

⑦クローズアップ！『森林をいかしたシイタケづくり』

広葉樹のクヌギやコナラの木を切り，その丸太にシイタケ菌を植え，農薬を使うことなくさいばいします。シイタケは体に良い成分を多くふくむ健康によい食品です。

鳥取県には「とっとり１１５」というみが厚いシイタケがあります。なかでも，特に大きく，形のよいものは，高級シイタケ「鳥取茸王」として売られています。また，鳥取県で開発された乾燥方法で作られた「低温乾燥しいたけ」は，湯につければ早くやわらかくなり，シイタケ特有のにおいが少なくておいしいので，学校給食に使われたり，海外に輸出されています。



コナラの丸太にはえたシイタケ





シイタケ「鳥取茸王」

シイタケ生産者の声

- 原木シイタケづくりは昔からあるものなので，しっかり守って子供たちに伝えていきたい。
- シイタケ用の木を伐ることは海の生き物を育てることにつながるので，地球にやさしい大切な仕事です。
- いっせいにシイタケが生えると花が咲いたようで，うれしい気持ちになるので，たくさん作っています。



本城　晃さん
（鳥取市）



福井　聡さん
（倉吉市）



田子和之さん
（米子市）